出雲國猪目洞穴遺跡概報

大 谷 從 二
大 國 一 雄
池 田 次 郎

緒 言

昭和 23 年 11 月 16 日付の中國新聞に猪目^{イノブ}洞穴から人骨が出たことが報道されたのを見た池田は、12 月 4 日、この洞穴の發掘に参加した大社考古學會の諸氏の案内で現狀及び遺物を視察し、更に本年 1 月、酒詰仲男氏と共に同地へ赴き、出土人骨の一部を實測した。本遺跡に就いては、いずれ大社考古學會から詳細公表の豫定であるが、木器その他有機物の

保存状態が特異なこと及び多数の人骨が出たことを速報して、早く學會に紹介する必要を感じたので、大社考古學會員大谷、大國兩氏等を促して、遺跡及び遺物の概説を執筆するよう依頼した。これに就いては、同氏等の快諾を得て、5 月 28 日、考古學協會總會で發表した。本篇はその講演要旨である。この機会に大社考古學會並びに本調査に際し便宜を與えられた吉田本一郎氏を始め、猪目部落、及び北山廣助氏等工事關係諸氏に深く感謝の意を表する次第である。因みに發掘に参加した大社考古學會員は、大谷從二、岩井益一、大國一雄、小林男一、岩井光男、新宮利信、廣瀬信憲、佐藤正、山根雅郎の諸氏である。（池田記）

遺 跡

本遺跡は島根縣簸川郡鰐淵村大字猪目にある。昭和 23 年 10 月 25 日山根雅郎氏が同地に出張中、漁港修

第 1 圖

築中の洞穴内から多数の人骨及び土器等が出土したことを聞いて、現場を視察し、直ちにこのことを岩井と大谷に報告した。よつて兩人は大社考古學會員等と共に同 27 日現地をたずねたが、既に土工事がかなり進行し、遺物包含層の約三分の一は除去され、多数の人骨、土器、木器等は一括搬出されてあつた。そこで兩人は即日調査を開始し、以後 11 月 26 日に至る迄關係者の諒解を得て、土工事の進行するに従ひ調査を進め不十分ながら、ほぼ目的を達することが出来た。

本遺跡は島根半島の北岸、日本海に面する猪目灣の西端にある輝綠凝灰岩に生じた海蝕大洞穴内にあり、工事に着手するまでには洞前に喬木、蔦類が繁茂して洞口をおおつていた。

第 2 圖

附近一帯は第三紀凝灰岩よりなり、岩層は 27° — 30° N, 70° — 80° W に傾斜して日本海に没入する。然るにこの累層中には凝結の弱い集塊岩層を挟んでいるので、之が海蝕されて洞穴が形成されたのである。従つて洞

口は東に向い、北方からの強い風波を全く受けない。洞口は汀線より約 30m にあり、幅約 36 m、高さ中央部で約 12 m。奥に進むに従つて幅と高さを減じ、30 m にして長さ 37 m の狭いトンネル状岩隙となり、洞穴の全形は漏斗状である。洞底の岩盤は海面よりさほど高くないが、落盤による土石が洞口附近を稜線として丘状に堆積する。その高さ海拔 8—9 m。堆積層は凝灰岩の巨塊、小片及び微砂からなり、多量の木葉、其の他の有機質及び各種の遺物を含む。遺物は堆積の表層以下逐次鮮明繊細な層序をなして木葉及び石片の間に順序よく挟まれていた。この點は重要視すべき點であつて、後述の如く、遺物の保存状態が餘りにも良好なので懷疑の念を抱かせるが、この整然たる層序はこれを拂拭するに足る重要な所見というべきである。(大谷、大國記)

遺 物

自然遺物——1. 人骨 10 數體

2. 貝類 にほんしじみ、レベツクかわにな、さどしじみ、いがい、さどえ、まつばがいくぼがい、あわび、よめがさら、べつこうがい、ふじつぼ、すかしがさ、れいし、くりふれいし、からすがい、かたつむり

以上の中淡水産のにほんしじみが最も多くさどえ、いがい、べつこうがさ等之に次ぐ。

3. 獸骨 しか、うさぎ、もぐら、いぬ、さる、いるか、其の他、
4. 鳥骨 わし、かもめ、うみう、其の他、
5. 魚骨其の他 たい、はりふぐ、えい、ひらめ、さわら、すどき、かに、いか、うに、
6. 蟲類 ふなむし、やすで、昆蟲鞘翅類、
7. 海藻 あらめ、ぼんだわら、
8. 木實 桐、油桐、椿、くるみ、椎、
9. 稻の粃 及び麥、
10. 木片 木の葉等。

以上の遺物にはしばしば保存状態の良好なるものあり、しじみの殻の表面に黒色のキチン質を存し、かにの甲羅が赤く、犬、鳥等の骨には毛が付いて居り、魚には鱗、蟲には翅が見られる等この類である。尙糞石などもあつた。

人工遺物——1. 石器 小刀子 (スレート製)、石器破片 (綠泥片岩製)

2. 土器、彌生式土器 (前期 1 片) 土師器 (第 2 圖上段右) 祝部土器
3. 貝器 貝輪 6 個 (天狗にし製) (同圖上段左端上)
4. 木器 短弓 1 (同圖下段) 盾 1 下駄 2 (同圖上段中央) 木太刀様の物 1 土掘子 1 (同圖中段) 頭様の物 1 コツプ状木器 1 木椀 1 (同圖上段左端下) 刀子柄 2 個、木箸 1 對、竹箸 1 個、其の他用途不明のもの多數、丸木舟の廢殘或は木棺の殘片かと思われる板 3 枚、
5. 鐵器 釘 1、鈎針 1、燒錐狀のもの 1、鐵器片 1 個、
6. 骨角器 用途不明のもの 2 個 7. 朱塊

以上の人工遺物についての詳細なる説明は之を省略するが、多數の木器類の中には珍らしいものが多く、又天狗にし製の貝輪もその發見例は稀である。土器は未だ整理中であるが、彌生式前期の一片は第 12 層より出土、他の層出土の土器はすべて土師祝部である。(この點に就いては小林行雄氏の教を受けた。)

以上の遺物の層序配列は出土遺物層位表に示してあるが、第 12 層以下は未發掘で、こ

第 1 表

層位	厚さ (cm)	組織	人骨	土器	木器、鐵器、石器	靱	その他
1	18	砂、木葉					
2	2	砂、岩、木葉					
3	7	岩層、砂	1～4號	祝郡	短弓、盾、下駄、枕 ?、刀子柄、土掘子、 コップ狀木器?	存	木器片、 木炭
4	18	岩層、砂	5～7號	土師	簪	存	木片
5	23	木灰		土師			
6	12	砂、石片	8～10號			多	
7	10	木葉					
8	15	砂、木葉	11～13(?)號	土師	朱塊、丸木舟、犁 頭? 竹箸		
9	16	砂、木葉				存	藁、木片、木炭
10	25	木葉				存	
11	12	砂	14號	土師	石製刀子、鐵器片 木簪、貝輪	存	不完全爐、燒 木炭多
12			15, 16(?)號	彌生?			炭、木片

に尙問題がのこされている。(大谷、大國、池田記)

人骨の埋存状態

出土人骨は成人 12 體以上、小兒 1 體と推定されるが、このうち計測に堪えるものは少い。

1. 第 12 號人骨、C 地點、地下約 90 cm に南 15° 西を頭方にして伸展葬。埋没層位第 9 層の上、第 8 層の中に埋存した。人骨を覆う土は層疊の明かな自然堆積で、深く掘り埋められたものではないと思われる。この層は土師器層にあたるが、副葬品らしきものは認められない。たゞし頭部の右 15cm の邊に梅干大の赤色顔料塊が 1 個發見された。また本人骨の直下に赤褐色乃至黒色の砂を包み表面に刷毛目を有する土師器薄片 2 個があり、同じ土中から、しじみ、海藻、木炭、靱、蒿、魚骨等が發見された。保存状態は非常に良好で、變質も破損も殆どないが、兩膝關節以下がない。これは隣接の第 11 號人骨發掘の際、不用意に抜き去られたものらしい。

2. 第 11 號人骨、B—C 地點、第 12 號人骨の足方に隣接して、これと丁字狀をなし頭部を洞口、即ちほぼ東方に向けた伸展葬で、第 12 號人骨と同層であつたらしいが、以上はこれを發掘した人夫の言によつたので、精確なことは不明である。これに屬する頭骨だけは指示によつて明かにされたが、四肢骨等は他の骨と混合されている。

3. 第 14 號人骨、B 地點、第 11 號人骨に近く、地表より約 150 cm、第 11 層(祝部層)にあつた。土師層の下に傾斜せる巨大な落盤があり、その下の隙き間につまつた土中落盤下 10 乃至 25 cm に埋つていた。これを包むこの土層は微細な有機質を含む砂層で同じ砂が骨の間隙にはさまり、同層の直下には腐蝕有機質及び貝類が特に多く、他の地域の第 11 層の層面と連續する。

副葬品としては上述の天狗にし製貝輪 6 個が右上膊骨にはめられているが、左腕にはない。また腹部には土師器がのつていた。その他人骨の直下よりはスレート製刀子が發見され

下の盤土から貝類、魚骨、粃、木炭、椎實、椿實、昆蟲翅を、又周囲には貝類多く、鳥獸骨、魚骨、木箸の様なもの、木炭片、木片等があつた。

4. 第 1, 2 號人骨、A地點、地下 1m 内外の深さで第 3 層即ち祝部層に屬する。頭體軸はほぼ東西に横たわつていたらしく、岩壁に接して、之に平行し、兩者足を交叉して正反對の方向に伸展葬されていた。なお各の頭部に近く同型の小埴形祝部土器が置かれ、一方の土器（洞口に近いもの）中には粃が入っていた。所屬諸骨は他の骨と混合されて識別され難い。

5. 第 13 號人骨、D地點、第 8 層にあつた 3 枚の丸木船の殘片と思われるものゝ間から發見されたが、頭蓋破片と脛骨が殘存する丈である。尙同じく丸木船の間からは彩色された高杯が出土した。

以上の人骨の他に、第 3 層に第 3 號（D地點、土器副葬）及び第 4 號人骨（D地點、土器副葬）第 4 層に第 5 號（C地點、伸展葬）第 6 號人骨（幼兒骨、C地點に亂雜に集合）其の他 1 體分かと思われる第 7 號人骨が B 地點に、又第 12 層には第 15 號人骨（A地點肢骨片）第 4 層の大型壺内には人骨若干が見られた。（大谷、大國記）

人 骨 の 計 測 値

現地で觀察計測したのは直ちに計測に堪える 12 號及び第 11 號人骨の頭骨の一部のみであつた。

第 2 表

		No. 12	No. 11
1. 最大頭長	Maximum head-length (g—op)	180	185
2. 最大頭幅	Maximum head breadth (eu—eu)	140	144
3. 最大前頭幅	Least frontal breadth (ft—ft)	89	93
4. 乳 様 幅	Bimastoid (ms—ms)	100	107
5. プレグマ高	Basi.bregmatic height (ba—b)	135	145
6. 額 長	Basi-alveolar length (ba—pr)	95	104
7. 兩 眼 窠 幅	Biocular breadth (ek—ek)	96	100
8. 顴 弓 幅	Bizygomatic breadth (zy—zy)	137	
9. 上 額 高	Nasoaleeolar height (n—pr)	74	75
10. 内 眼 窠 幅	Front interorbital baadth (mf—mf)	25	22
11. 鼻 高	Nasal height (n—ns)	57	54
12. 鼻 幅	Nasal breadth	25	28
13. 下 顴 角 幅	Bigonial breadth (go—go)	106	
14. 顴 高	Height of chin (id—gn)	35	

第 12 號人骨、頭骨は大きく、眉間隆起強く後頭骨には尖頂骨がある。尙上顎の兩側、及び下顎左の第三大臼齒を缺くが、拔齒は見られない。頭長幅示数は 77.6 で、中頭に屬し、頭長高示数は 74.9 で中頭の高い方である。

第 11 號人骨、頭骨の保存状態は非常に良好であるが右の顴骨及び下顎骨を缺く。眉間隆起は普通で、頭長幅示数は 77.67 で中頭、頭長高示数は 78.15 で高頭である。其の他の詳細は後日報告の豫定である。（池田記）

結 言

本遺跡の入骨、木器、其の他有機質遺物は餘りにも保存良好で、比較的新しく埋没したのではないかと疑わしめる程であるが、鮮明なる層序と標式的な土器の伴出は、第 12 層以降

の時間的配列を如實に示し、かゝる状態にあつたればこそ木葉の介在によつて繊細な層序を認識することが出来たと云える。但し保存状態のむらは層の上下に拘らず、所によつて認められる。遺物のかゝる保存状態にある遺跡は、未だ曾て之を聞かないが、本洞穴の内部は波浪も、雨水も、地下水も浸入せず、軽くて密なる凝灰岩砂がよく乾燥して空氣の流通をも妨げていたことは事實である。この點より考へて、洞内の低溫と低濕が微生物の生育を妨げ、有機質ひいては無機質の化學的分解及び物理學的崩壊がある程度以上には進行しなかつたものと思われる。保存状態の稍悪い所では、若干高濕であつたものと推測されるが、この點に關しては後日更に實測を試みる豫定である。

第 12 層の彌生期層を基底として、土師期、祝部期に於ける生活の遺相が見られるが、特に第 11 層、第 4 及び第 3 層に遺物が豊富であり、第 11 層にあつては不完全爐、焚火跡が見られ、第 4、3 層にも焼木、木炭片等があつた。本洞穴は第 11 層の土師期以降再三住居にされたものと思われる。然もその日常什器及び人骨の副葬品等の粗末なことは、庶民生活を例示すると思われて、われわれの興味をひいた。本遺跡の人骨は、屈葬から伸展葬へ移行し、遺棄されたものではあり得ない。遺物中、重要な土器には明かに鐵器の使用を認め得特に祝部層に多い。自然遺物中に粃があることは、この期の遺物としては當然であるが、現在附近には比較的水田が少く、淡水のにほんしよみの多量の出土と共に考えれば、當時に於ける地理的景觀は今日とは大いに異なるところがあつたであらう。(池田記)

Short Report on the Cave of Inome.

JUJI OTANI
KAZUO OKUNI
JIRO IKEDA

The site is at Inome, Wanibuchimura, Hikawa Country, Shimane Pref., facing the Japan Sea. In October, 1948, the cave was found and excavated by members of the Archeological Society of Taisha. We obtained many human bones, potteries and wooden implements.

Potteries—Yayoi Potteries, Haji Potteries, and Iwaibe Potteries.

Wooden implements—Canoe, bow, scoop etc.

Shells, bones of fishes and animals, nuts and rice-hulls etc.

The skeletons are found buried in various forms, particularly, No. 14 has six shell-bracelets around the right humerus.

This cave is 36 m in breadth, 12 m in height and 6 m length. The sand in the cave is tuff and dry. Therefore, the remains have been kept in good condition, we think.